

◎ 国立循環器病研究センターと国立環境研究所、関西大学が連携協定を締結

## 未来社会の「環境と健康の連関」分野における研究・人材育成・社会連携を推進



▲連携協定締結の様子。(左から)渡辺知保 国立環境研究所理事長、小川久雄 国立循環器病研究センター理事長、芝井敬司 関西大学学長

関西大学と国立循環器病研究センター、国立環境研究所は、それぞれ取り組んできた学術研究、医学研究、環境学研究を融合した「環境と健康の連関」分野における研究・人材育成・社会連携について、3機関の代表、知見等を活用し、相互に協力して進めることに合意。6月20日、包括的な基本協定を締結し、締結式と記念講演会を開催した。

本協定は、2019年度に採択された環境省環境研究総合推進費研究「気候変動の暑熱と高齢化社会の脆弱性に対する健康と環境の好循環の政策」をはじめとする共同研究の推進が目的。環境と健康の連関にかかる研究と人材育成に取り組み、未来社会の環境の保全と創造に資する成果の活用と実装を目指す。

記念講演会では、国立環境研究所の渡辺知保理事長が「Anthropocene—健康と福利のために環境を考える時代—」をテーマに、国立循環器病研究センターの小川久雄理事長が「新国立循環器病研究センターと北大阪健康医療都市(健都)」をテーマに講演。医学と環境学をリードする研究組織の長が揃う貴重な機会となり、聴講者は熱心に耳を傾けた。その後、本学環境都市工学部の北詰恵一教授が「気候変動の暑熱と高齢化社会の脆弱性に対する健康と環境の好循環の政策」について話題提供した。



▲記念講演会で挨拶をする芝井学長

◎ 法政大学・明治大学・関西大学による連携企画展を開催

## ボアソナードとその教え子たちの足跡をたどる



法政大学・明治大学・関西大学による三大学連携協力協定締結記念特別展「ボアソナードとその教え子たち」が、6月1日～7月20日、関西大学千里山キャンパスにて開催された。

本企画展は、「日本近代法の父」ボアソナード博士に学んだ若者たちが創設した大学として共通の起源を持つ3大学が、2017年9月に締結した連携協定の一環。ボアソナード博士にまつわる資料を展示し、博士の事績と、その意志を継ぎ法学普及につとめた教え子たち、そして彼らが創設した各大学の歴史を振り返った。特別展示室には、博士が実際に使用していたとされる机や直筆の手紙のレプリカなど、多



くの資料が展示されたほか、過去の箱根駅伝で使用されたユニフォームやたすきなど、各大学に関する貴重な資料も並べられた。

また、6月15日には記念シンポジウム「働くことと学ぶこと～商都大阪と関西法律学校～」も開催され、法政大学の田中優子総長、明治大学の千田亮吉副学長らを迎え、法学部の市原靖久教授、藪田貴名誉教授による基調講演や芝井敬司学長らによるパネルディスカッションも行われた。参加した聴講者は、ボアソナード博士と3大学の関係を振り返り、歴史的な観点からその意義を見つめ直した。



ボアソナードの肖像写真や直筆の手紙のレプリカが展示された特別展示室

◎ 大学×NPO法人×地域によるイベントで地域を活性化

## スポーツと文化の融合「カイザーズFactory2019」を開催



▲大学生と子どもたち混合の大運動会  
◀(左)120人の子どもたちが参加した「カイザーズFactory2019」  
(右)バラスポーツ競技「ポッチャ」を体験する子どもたち

関西大学とNPO法人関西大学カイザーズクラブは8月9日、千里山キャンパス東体育館において、スポーツ&学習イベント「カイザーズFactory2019」を開催した。

スポーツと文化を融合させた当イベントは、カイザーズクラブスクール生と地域の子どもたちが対象。地域活性化を推進し、子どもたちに自主性、協調性、社会性の向上や自己発見の機会を与え、成長を促すことを目的とし、さまざまな体験や交流の場を提供した。

当日は、本学学生50人とカイザーズクラブのスクール生50人、地域の子どもたち70人が集結。午前中のスポーツイベントでは大学生と子どもたち混合の運動会やバラスポーツ体験を、午後か

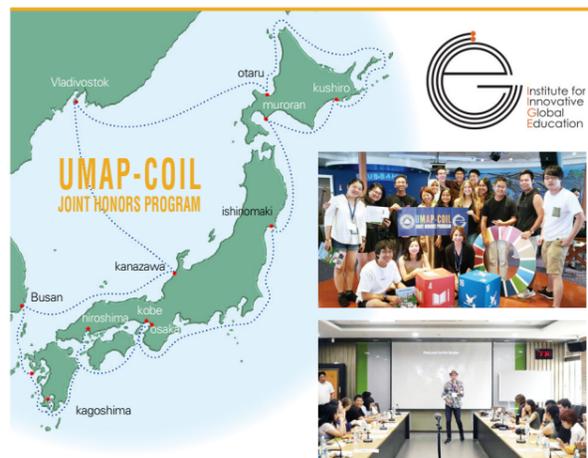
らの学習イベントでは千里山イングリッシュスクールの授業体験や夏休みの宿題質問コーナーを実施した。集まった子どもたちは、元気いっぱいイベントに参加し、大学ならではの体験を満喫していた。



▲(左)千里山イングリッシュスクール授業体験 (右)大学生による夏休みの宿題質問コーナー

◎ 「UMAP-COIL Joint Honors Program」を新規開講

## 船旅を通じ、平和・SDGsをテーマに国際理解を深める



グローバル教育イノベーション推進機構(IIGE)では、アジア太平洋大学交流機構(UMAP)共催、ピースポート協力のもと、ピースポートに乗船して世界の学生と協働学習・交流を行うプログラム「UMAP-COIL Joint Honors Program」を新たに開講した。

本プログラムは、国内外におけるCOIL型教育実践を促進するIIGEが、越境的国際教育の一環としてCOIL型教育をさらに発展させたもの。アジア太平洋地域のピースポートクルーズを活用し、8月4日～23日の20日間、日本各地、韓国(釜山)、ロシア(ウラジオストック)を周遊しながら、各寄港地でのフィールドワークを通じて「平和」や「SDGs(持続可能な開発目標)」等をテーマにグループ学習を実施した。

このプログラムには、関大生をはじめ、UMAPのネットワークによる各国の優秀な留学生や日本人学生の計16人が参加。乗船前の7月1日～21日には、COILセッションが実施され、オンライン交流でSDGsについての意識を高めた。続く27日～8月4日には、大阪でセミナーも開催され、日本語や日本文化を学び、SDGsに取り組む企業への訪問を通じてSDGs実装化のためのヒントを模索。乗船後は、テーマに精通したナビゲーターによる講義や、世界各国の学生との協働学習を通じて国際問題に関する理解を深め、解決策を自ら考える力をしっかりと培った。

